～このコーナーでは、福祉に関するさまざまな情報を掲載しています～

福祉情報

NEWS

ヘルプマークを知っていますか?

援助が必要な人のためのマークです。

義足や人工関節を使用している人、内部障がいや難病の人、または妊娠初期の人など、外見からわからなくても援助や配慮を必要としている人がいます。その人が配慮を必要としていることを周囲に知らせることで、援助や配慮が得やすい社会を実現するためのものです。

このマークを身に着けた人を見かけたら…

○電車やバスでは席を譲りましょう

外見ではわからないため、疲れやすかったり同じ姿勢を保つことが困難な人がいます。

○駅や商業施設等で声をかけましょう

交通機関の事故など、突発的な出来事に対して臨機応変に対応することが困難な人や、立ち上がる・歩く・階段の昇降などの動作が困難な人がいます。

○災害時には安全に避難するための支援をお願いします

視覚障がい者や聴覚障がい者などの状況把握が難しい人、肢体不自由者などの自力での迅速な避難が難しい人がいます。

困っているようであれば声をかけるなど、**思いやりのある行動**をお願いします。

ヘルプカード

緊急連絡先や必要な支援内容などが記載でき、障がいのある人が災害時や緊急時、日常生活の中で困ったときなど、周囲に手助けを求めたいときに提示し、自己の障がいへの理解や支援を求めるためのカードです。

ヘルプカードを提示されたら、その内容に沿って支援をお願いします。

■**配布場所**　・みどり市役所（社会福祉課、大間々市民生活課、東市民生活課）
・県各保健福祉事務所

高齢者虐待防止講演会

こころに余裕のある生活をおくるコツ～心理学を応用して～

10月17日（木）、笠懸公民館で「こころに余裕のある生活をおくるコツ～心理学を応用して～」と題して埼玉医科大学助教 庄野伸幸先生を招き、高齢者虐待防止講演会が開催されました。

心配や不安を安心・楽観にする考え方や、ストレスと上手に向き合いゆったりのんびり生活する方法、また、対応の一つとして「相手の話を十分に聞くことにより、相手にも聞く耳ができる」など、欲求が満たされると心に余裕が生まれるといった話がありました。

参加者からは「もっと早く話を聞きたかった」「子育てや職場にも活用できる」などの感想があり、介護疲れ・虐待防止だけでなく日常生活での人間関係の持ち方を分かりやすく教えていただきました。